

News Release

2020年5月26日

報道資料

パイオニアとコンチネンタル、統合コックピット開発における戦略的パートナーシップの締結に合意

パイオニア株式会社とコンチネンタル(本社:ドイツ・バーベンハウゼン)は、今後車両への搭載増加が見込まれる統合コックピットの開発において、戦略的な提携を行うことに合意しました。本協業は、両社のインフォテインメントに関する技術を組み合わせ、車室内における新しいユーザーエクスペリエンスを用いたインフォテインメントシステムを開発し、アジア市場を中心に提供していくことを目的としています。

【戦略的パートナーシップの主な内容】

- ・両社は、特にアジア市場を共通のターゲットとする統合コックピット開発で協業
- ・パイオニアは、マルチメディアやナビゲーションのアプリケーションを始めとする、インフォテインメントソリューションをコンチネンタルに提供
- ・コンチネンタルは、将来のコックピットにおいて新しいユーザーエクスペリエンスを提供するためのプラットフォームとして、コックピット・ハイパフォーマンス・コンピュータ(HPC)を採用

※コンチネンタルのコックピット・ハイパフォーマンス・コンピュータ(HPC)：モジュールプラットフォームによる新しいユーザーエクスペリエンスの技術的基盤



【パイオニアとコンチネンタルが協業して開発を進める新しいユーザーエクスペリエンスの統合コックピット(イメージ)】



【パイオニアのインフォテインメントソリューションが統合されたコンチネンタルのコックピット HPC(イメージ)】

本協業を通じて、パイオニアのインフォテインメントソリューションがコンチネンタルの車両向けコックピット・ハイパフォーマンス・コンピュータ(コックピット HPC)に統合されます。パイオニアの広範囲なソフトウェアパッケージとコンチネンタルの HPC の統合は、車両メーカーにおけるコックピットシステムの開発に大きな可能性を提供します。

この統合により、車両アーキテクチャの統合のトレンドとコックピットにおける機能範囲の急速な拡大にともなうソフトウェアの複雑化へ対応でき、ドライバーや搭乗者へ最適な手法で幅広い情報を伝える統合コックピットの開発が可能となります。車両メーカーは、インフォテインメントの幅広いソフトウェアパッケージを活用したコックピットシステムを柔軟に開発できるようになります。

今後、複数のスペシャリストパートナー間の戦略的な協業の強化が必要となる中、幅広い統合専門知識・ノウハウを持つコンチネンタルと、カーエンタテインメントにおけるインフォテインメントソリューションの知見を有するパイオニアによる本協業は、コックピットシステムの分野において、柔軟で包括的なコラボレーションモデルとなります。

パイオニアのモビリティプロダクトカンパニーの責任者である高島直人は、次のように述べています。

「コンチネンタルは集合計器と車両安全システムに関する優れた知見を持っており、当社は、OEM とアフターマーケットの両方で 40 年以上に渡るグローバルでのマーケティング経験を通じて得られたカーエンタテインメントの知見を持っています。両社の知見は、ますます高機能化が進む中、安全で直感的な操作が可能な次世代 HMI(ヒューマン・マシン・インターフェース)の提供において欠かすことができません。両社は、究極のユーザーエクスペリエンスを提供することを目的として、互いの知見を持ち寄り、コンセプト実証を通じて新しいアイデアを生み出し、具現化する取り組みを始めています。」

コンチネンタルのヒューマン・マシン・インターフェースビジネスユニット責任者であるフランク・ラーベ博士(Dr. Frank Rabe)は次のように述べています。

「ユーザーエクスペリエンスは、車両の知覚領域の開発において、ますます重要な役割を果たしています。特に、操作の安全性、快適なデザイン、高機能性が最も重要です。当社のコックピット HPC は、さまざまなソースからのサブドメイン全体のシームレスな統合などを含む要件を完全に満たしています。パイオニアは、当社の完璧で最適な協業パートナーであると考えています。」

【コンチネンタルの柔軟なプラットフォームの優位性について】

これまで、車両の HMI は基本的に 2 つのディスプレイに実装された 2 つの独立した領域、すなわちドライバーへ情報を表示するメーターパネルと、ドライバーと助手席用のセンタースタックディスプレイで構成されていました。インフォテインメント関連は、センタースタックディスプレイに集中していましたが、情報、サービス、機能の相互コネクティビティに対する高まりにより、この構造はもはや理想的ではなくなっています。それに対し、コンチネンタルのコックピット HPC を搭載した統合コックピットは、車両内のすべてのディスプレイと操作要素を統合したユーザーインターフェースを実現します。

この統合コックピットでは、コンテンツを表示制限に関係なく表示でき、ユーザーが個別に配置することも可能なので、予想される重大な場面毎に本当に必要な情報のみ優先して表示します。これにより、ドライバーが受け取る情報が多すぎたり、気が散ったりすることがなくなります。一方、自動運転モードでは、すべてのサービスとアプリがドライバーへ提供されます。継続的に更新または修正できる単一のハードウェア上で、操作システムと異系統な全てのシステムを分離する構造により、これらの快適性と安全性の向上が図られています。その実現のためには、ハードウェアに関係なく、単一の高性能コンピュータで多くのソースに付随するソフトウェアを提供する必要があります。本協業を通じて、両社は、コンチネンタルの高性能なプラットフォームを柔軟に活用することができます。

前述のラーベ氏は次のように補足しています。「特にアジア市場は自動車のデジタル化分野に高い関心があり、ダイナミックです。このたびの戦略的協業を通じて、双方にとって強みと知見を理想的に組み合わせることができると思っています。このプラットフォームは、ソフトウェアを柔軟に実装でき、コックピット HPC は協業を促進する技術的基盤となります。」